

執筆者紹介

ニコラス・サンバニス

イエール大学教授（政治学）。倫理学・政治学・経済学プログラム・ディレクター。研究対象は内戦、民族紛争および紛争後復興。*American Political Science Review*、*World Politics*、*Journal of Conflict Resolution*、*Comparative Political Studies*、*Journal of Peace Research* 等多数の学術誌に論文を発表している。また、内戦後の移行期における国連 PKO の効果に関する初の計量分析をマイケルドイル（コロンビア大学教授）と共に行った（論文は 2001 年に *American Political Science Review* に掲載）。同研究に関する書籍も『戦争の開始と平和の構築』（*Making War and Building Peace*, Princeton University Press, 2006）として出版されている。現在は、分離主義者による紛争に関する著作を仕上げるとともに、社会心理学、比較政治学および国際関係学の理論を統合するいくつかの研究プロジェクトに従事している。

ポール・ウィリアムズ

ジョージ・ワシントン大学准教授（国際関係学）。国際平和研究所（ニューヨーク）学外上級アドバイザーおよびエチオピア・アジスアベバ大学平和安全保障研究所客員教授を併任。主要著書に、『アフリカの戦争と紛争』（*War and Conflict in Africa*, Polity, 2011）、『平和維持要員の提供—国連 PKO への貢献をめぐる政治、諸課題と将来』（*Providing Peacekeepers: The Politics, Challenges, and Future of UN Peacekeeping Contributions*, Oxford University Press, 2013）、『平和維持論』（*Understanding Peacekeeping*, Polity, 2nd ed., 2010）がある。また、現在は、アフリカ連合ソマリア・ミッション（AMISOM）に関する著作に取り組んでいるほか、平和維持要員の提供に関する研究プロジェクト（“Providing for Peacekeeping Project,” <http://www.providingforpeacekeeping.org/>）の運営支援をおこなっている。

ティエリー・ターディー

欧州連合安全保障研究所 (EUISS) シニア・アナリスト。国連および EU を中心とした軍事・文民危機管理、安全保障面のガバナンスに関する組織間協力、安全保障の地域主義、欧州共通安全保障・防衛政策 (CSDP) に関する研究および出版多数。近著に『アフリカの平和維持——進展する安全保障枠組み』(*Peacekeeping in Africa: The Evolving Security Architecture*, Routledge, 2014) (共著) およびソマリア沖海賊対策コンタクト・グループに関する教訓集 (*The Contact Group on Piracy off the Coast of Somalia (CGPCS): A Lessons Learnt Compendium*, EUISS Report, 2014) がある。また、現在『国連平和維持活動オックスフォード・ハンドブック』(*Oxford Handbook on United Nations Peacekeeping Operations*, Oxford University Press) (共著) を編纂中。*International Peacekeeping* 誌編集委員。ジュネーブ国際開発研究大学院およびパリ政治学院にて教鞭歴があり、現在はソルボンヌ大学および仏国防大学で教鞭をとるほか、欧州安全保障・防衛大学校にて定期的に講義をおこなう。

エッケハルト・グリープ

2012 年より独連邦国防省政治局にて、国連関連政策を担当。2009 年から 2012 年には、国防省にて政策企画担当スタッフ、2005 年から 2009 年にかけて独連邦外務省軍事顧問、2002 年から 2004 年にかけて NATO 独軍代表部にて軍事専門家として勤務。独連邦軍においては、司令官 (大隊司令官、砲兵中隊長) および幕僚 (師団、旅団、連隊司令部) を歴任。1995 年から 1998 年にかけて、国連本部 PKO 局にて計画支援担当事務総長補佐に就任。以降、国際問題を主な関心領域とし、OSCE 国際選挙監視要員として 2001 年コンゴ、2004 年アフガニスタンに、EU 国際選挙監視要員として 2006 年コンゴ民主共和国に派遣。経済学および管理学を学んだほか、政治学博士号も取得。独国連協会副会長を併任。また、継続的に国連関連、特に国連 PKO に関する論文を発表。

エイドリアン・ジョンソン

英国王立統合軍防衛安全保障問題研究所 (RUSI) 研究員兼出版部長。研究対象は国際介入および平和活動。最近の研究には、不安定状況下における国連 PKO 派遣のリスク分析および出口戦略・撤退基準に関する分析がある (英国防省委託)。2008 年から 2011 年にかけて、アフリカおよび西側諸国の政治家、政府関係者、軍幹部間での平和構築ベスト・プラクティスを共有するための取り組みであるツワル対話に参加。また、政府機関の要請による社会変革および移行期の国家に関する調査を実施した経験のほか、バルカン半島の安全保障に関する長年の研究に基づく知見も有している。『平和時の紛争——1991 年以降の英国軍事活動』(*Wars in Peace: British Military Operations since 1991*, RUSI, 2014) を編集。ロンドン大学キングス・カレッジ戦争学部より紛争・安全保障・開発学研究学修士号取得 (優等)。米国平和研究所 (USIP) 紛争調停プログラム修了。

グスタボ・ド・カルヴァーリョ

2014 年 4 月、安全保障研究所 (南アフリカ) 紛争管理・平和構築部に上級研究員として着任。アフリカの平和構築に関する能力開発、政策支援および研究イニシアティブで幅広い経験を持つ。2009 年から 2014 年にかけて紛争の建設的解決のためのアフリカ・センター (ACCORD) にて平和のための訓練プログラム (TFP) 分析員として勤務し、その後同平和構築ユニット・コーディネーターとして勤務。過去には、ロンドンに拠点を置く非政府・非営利組織であるグローバル・ウィットネスに研究者として勤務し、コンゴ民主共和国およびソマリアにおける天然資源と紛争に関するキャンペーンに従事した。ブラジリア大学学士 (国際関係学)、オックスフォード大学修士 (アフリカ研究)。

デービッド・カビー

ヴィクトリア大学ウェリントン（ニュージーランド）准教授（国際関係学）兼戦略研究センター研究主任。研究関心分野はアジア太平洋地域、特にASEANにおける紛争および安全保障問題。主要著書および論文に、『東南アジアにおける小火器生産と移転』（*Small Arms Production and Transfers in Southeast Asia*, Australian National University, 2002）、『銃の脅威—太平洋地域における小火器問題』（*Under the Gun: The Small Arms Challenge in the Pacific*, Victoria University Press, 2003）、『アジア太平洋安全保障用語集』（*The Asia-Pacific Security Lexicon*, Institute of Southeast Asian Studies, 2002, 第2版 2008）がある。ロックフェラー財団、マッカーサー財団およびニュージーランド・マースデン基金からの研究支援を受けている。また、ハーバード大学ウェザーヘッド国際問題研究所にて客員研究員、ローマ社会科学国際自由大学（LUISS Guido Carli）にてEUオセアニア社会科学地域間コンソーシアム（EU-OSSIC）客員研究員を歴任し、現在はアメリカン大学ASEAN研究センターにて研究員を務める。

山下 光（やました ひかる）

防衛省防衛研究所理論研究部政治・法制研究室長。2003年より防衛研究所勤務。専門は平和維持活動、国際人道問題、国際政治思想。1990年代の紛争における安全地帯に関する著作（*Humanitarian Space and International Politics: The Creation of Safe Areas*, Ashgate, 2004）のほか、*International Peacekeeping*, *Review of International Studies*, *Global Governance*, *Millennium: Journal of International Studies*などの学術誌に論文を発表。2008年～09年コロンビア大学ザルツマン戦争平和学研究所客員研究員（フルブライト研究員）。ロンドン大学経済政治学院（LSE）修士（国際関係論）、ウェールズ大学（現アバリストウィス大学）博士（国際政治学）。